指揮のないエコシンフォニーアンサンブル

ENSEMBLE PASTORALE

第5回演奏会

アンサンブル・パストラーレ

心ある人は
その柔らかく愛らしい音に
抗うことができない

BORN TO BE MOZART Vol.I

2024 9.7 土 18:00開演 豊洲シビックセンターホール

後援：日本モーツァルト愛好会

W.A. モーツァルト (Transcribed by Paul M. Douglas):

ピアノ・ソナタ ハ長調 第7番 K.309/ 10番 K.330 (室内楽5重奏版)

Wolfgang Amadeus Mozart (Transcribed by Paul M. Douglas): Piano Sonata in C K.309/K.330

Ⅰ. Allegro con Spirito

Ⅱ. Andante cantabile

Ⅲ. Allegretto

W.A. モーツァルト (茂木宏文 編曲): **クラリネット協奏曲 イ長調** K.622

Wolfgang Amadeus Mozart (arr.Hirofumi Mogi): Clarinet Concerto in A major, K.622

クラリネット: アレッサンドロ・ベヴェラリ

Ⅰ. Allegro

Ⅱ. Adagio

Ⅲ. Rondo. Allegro

Intermission

W.A. モーツァルト (茂木宏文 編曲): **交響曲第40番 ト短調** K.550 (10重奏版)

Wolfgang Amadeus Mozart (arr.Hirofumi Mogi): Symphony No.40 in G minor, K. 550

Ⅰ. Molto Allegro

Ⅱ. Andante

Ⅲ. Menuetto. Allegretto

Ⅳ. Finale. Allegro assai

W.A. モーツァルト（Transcribed by Paul M. Douglas）：ピアノ・ソナタ ハ長調 第7番 K.309/ 10番 K.330（室内楽5重奏版）

Wolfgang Amadeus Mozart (Transcribed by Paul M. Douglas): Piano Sonata in C K.309/K.330

モーツァルトピアノソナタを1楽章は7番、2、3楽章は10番というアレンジで、フルート、オーボエ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの五重奏で演奏します。モーツァルトピアノソナタの作品をパストラーレの名手たちがどのように解釈し、表現するのか、ご期待ください。

ピアノソナタ7番はモーツァルトが21歳の時の作品で、就職活動のための旅の目的地の一つであったマンハイムにて作曲されました。当時のマンハイムはヨーロッパの主要な音楽都市の一つで、マンハイム宮廷楽団は最高レベルのオーケストラの一つでした。モーツァルトは、マンハイム宮廷楽団のコンサートマスターであったカンナビヒと仲良くなるために彼の15歳の娘のために7番のピアノソナタを作曲しました。モーツァルトは毎日カンナビヒの家を訪れ、馬鹿騒ぎをしていた事を父に手紙を残しています。「お父上、私ことモーツァルトは、ここに罪の告白をいたします。夜10時より、深夜12時に帰宅するまで、カンナビヒの家で、カンナビヒ、同婦人とお嬢様、財務長官ラムラング氏らの面前で、共々に、しかも嫌々ではなく、浮き浮きと、ただただ落ちる雷、すなわち、うんこ、クソッタレ、尻なめ、などの語呂遊びを致しました。」ピアノソナタ10番はモーツァルトが27歳の時の作品で、音楽家として脂がのり、毎日寝る暇もなく働いていた頃、弟子たちの教材として、また出版による収入のために作曲されたと見られています。

モーツァルトの作品全般に言えることですが、ピアノソナタを取り上げてみても、演奏者によって全く異なる音楽かのように聴こえます。それはモーツァルトの作品を演奏する難しさの証でもあり、演奏家として高みを目指すと、モーツァルトの沼にはまるような経験を誰もがするものです。モーツァルトの父であるレオポルトは自身の書籍、レオポルトモーツァルト ヴァイオリン奏法の中で次のように語っています。「難しい曲を演奏するのには、多くの頭脳を必要としない。器用にポジションを考えるだけの頭さえあれば、最も難しいパッセージも自ずとできるようになり、後は一生懸命に練習するだけだからだ。これに対して、作曲者の指示に従いエフェクトを正しく表現するのは、簡単ではない。あらかじめなされた注意や指示のすべてに気を配り、指示された通りに演奏するのではなく、しっかりとした感覚をもって演奏しなければならないからだ。」

W.A. モーツァルト（茂木宏文 編曲）：クラリネット協奏曲 イ長調 K.622

Wolfgang Amadeus Mozart (arr.Hirofumi Mogi): Clarinet Concerto in A major, K.622

オリジナルの編成は、弦楽器+2フルート、2ホルン、2ファゴットですが、今回はオーボエも加わったフルート、オーボエ、ホルン、ファゴットのパストラーレ編成のオーケストレーションです。特別な室内楽演奏に加えて、ソリストであるアレッサンドロ・ベヴェラリの柔らかく愛らしい音をご堪能ください。

モーツァルトのクラリネット協奏曲は、作曲家が35歳で亡くなる2ヵ月前の1791年10月に完成しま

した。モーツァルトは、この協奏曲を３歳年上のウィーン宮廷楽団のクラリネット奏者アントン・シュタドラーのために作曲し、初演はシュタドラーの演奏で１８９１年１０月１６日にプラハで行われました。二人はフリーメイソンの会員として親交を深めました。モーツァルトはシュタドラーに手紙の中で次のように書いています。「あなたの演奏ほど、クラリネットが巧みに人の声に近づくことができるとは思ったことがありません。心ある者はその柔らかく愛らしい音に抗うことができません。」このように両者は互いに尊敬し、大変仲が良かったのですが、シュタドラーはオリジナルの自筆譜の多くを紛失しており、その中には現在は残っていない作品の楽譜もあるようです。シュタドラーは、当時最高の音楽家として知られていますが、残念ながらだらしがなかったようで、モーツァルトの妻であるコンスタンツェが出版社に宛てた手紙には次のように書かれています。「シュタドラーは楽譜を旅先で盗まれたと主張しているが、他の人からは借金の形にとられたと聞いている」

モーツァルトとシュタドラーが気が合う理由はなんとなく理解できる気がしますね。

W.A. モーツァルト（茂木宏文 編曲）：交響曲第４０番 ト短調 K.550（10重奏版）

Wolfgang Amadeus Mozart (arr.Hirofumi Mogi): Symphony No.40 in G minor, K. 550

交響曲４０番の繊細な「ため息」を室内楽のアンサンブルで表現するアンサンブルパストラーレの挑戦にご期待ください。

交響曲第４０番はモーツァルトが３２歳の頃の作品で、３９番、４１番と共にモーツァルトの3大交響曲として知られています。この3つの交響曲は誰かからの依頼によるものではなく彼自身の創作意欲のために、１７８８年6月２６日から8月１０日のわずか６週間の期間で完成されました。この時期は様々な困難に直面しており、モーツァルトの創造性は状況が破滅的になるにつれて研ぎ澄まされていきました。1年前に亡くなった父への想いとの関連性を議論されるオペラ、ドン・ジョバンニは、１７８８年の5月7日にウィーンで初演されるも全く評価をされず、長女テレーズは１７８８年6月２９日に生後６ヶ月で亡くなり、経済的には借金が膨らみ続けました。ウィーンに移り住んだ当初は、朗らかで甘美な作品で多くの人を虜にしていたモーツァルトでしたが、次第に需要のためではなく自己表現のために創作するようになり、以前よりも難解な作品を書くようになりました。彼の人気は徐々に薄れ、ウィーンをはじめ、一部を除くヨーロッパ各地から敬遠され始めたのでした。それはモーツァルト本人も自覚をしていましたが、インスピレーションのままに芸術を創り出す以外にできる事はありませんでした。先の見えない中で生まれた交響曲第４０番第１楽章の冒頭の主題は、ため息のモチーフと呼ばれ、不安や悲哀、哀愁を帯びた遣る瀬ない想いが彷徨っているかのように感じられます。私たちがイメージする純粋無垢で愛らしいモーツァルトの音楽とはかけ離れている４０番の交響曲は、天才故の苦悩や繊細さの表れなのかもしれません。

Profile | プロフィール

三浦 章宏 ヴァイオリン *Akihiro MIURA, violin*

東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。筑波大学にて教育学、心理学、心身障害学を学ぶ。この頃から徳永二男氏に師事し、ヴァイオリンの研鑽を積む。卒業後NHK交響楽団に入団。1999年に新星日本交響楽団の首席コンサートマスターに就任。2001年からは東京フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターを務めている。第53回日本音楽コンクール入選。第25回ティボール ヴァルガ国際コンクール最高位など受賞多数。ソリストとして国内外多数のオーケストラとコンチェルトの共演を行なっており、2021年からはこれまでも精力的に行なってきたソロリサイタルをシリーズ化し、毎年開催予定。室内楽ではボアベールトリオ、ヴェーラ弦楽四重奏曲など多岐に渡り多彩な演奏活動を展開している。宮崎国際音楽祭に毎年出演。国立音楽大学、洗足学園音楽大学非常勤講師。トヨタユースオーケストラキャンプ講師、世田谷ジュニアオーケストラ　ストリングセクションディレクター、姫路市ジュニアオーケストラアドバイザー。2020年初のソロアルバム、ベートーヴェンソナタ集vol.1[クロイツェル]をリリース。2022年9月には、2枚目のソロアルバム、ベートーヴェンソナタ集vol.2をリリースした。

山本 琢也 ヴァイオリン *Takuya YAMAMOTO, violin*

桐朋学園大学音楽学部卒業。小林健次氏に師事。特別奨学金を受け米国リン音楽学校にてディプロマプログラムを卒業。エルマー・オリベイラ、キャロル・コール両氏に師事。ユージンシンフォニー第一バイオリン奏者を経て、ハジア弦楽四重奏団第一のバイオリン奏者として、ボイジ州立大学修士弦楽四重奏プログラムのレジデンスカルテットを2年間、及びボイジフィルハーモニーにて第一バイオリン奏者、アシスタントコンサートマスターを務める。アスペン、メドマウント、グレートマウンテン、サイトウキネン、小澤征爾音楽塾、プロジェクトQ、等の音楽祭に参加。オリーブツリー弦楽四重奏団第一バイオリン奏者。

デイヴィッド・メイソン ヴィオラ *David MASON, viola*

米国ウィスコンシン出身。コンクールでの優勝を機に15歳でソロコンチェルトデビュー。インターロッケン音楽学校を卒業。全額奨学金を受けニューイングランド音楽学校にて学士号を取得。2015年イエール大学音楽修士を修了。スポレト音楽祭、パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌、アフィニス音楽祭に参加。ペトルッシ弦楽四重奏団のメンバーとして米国、中国でリサイタルツアーに参加。2017年ボストン大学博士課程在学中に兵庫芸術文化センター管弦楽団に入団。日本フィルハーモニー交響楽団の主席ヴィオリストを務めた後、現在、東京都交響楽団ヴィオラ奏者。オリーブツリー弦楽四重奏団ヴィオラ奏者。

小畠 幸法 チェロ *Yukinori KOBATAKE, cello*

NHK交響楽団チェロ奏者。東京藝術大学音楽学部卒業。同大学院音楽学部修士課程修了。これまでに金木博幸、間瀬利雄、苅田雅治、山崎伸子、藤森亮一の各氏に師事。マスタークラスをW.ヴェッチャー、P.ドゥマンジェ、D.ゲリンガスに師事。キジアーナ音楽院国際アカデミー、小澤国際室内楽アカデミー参加。JTが育てるアンサンブルシリーズ、JT アフィニス アンサンブル セレクション特別演奏、フジロックフェスティバル2018G&G Miller Orchestra等 多 数出演。ENSEMBLE FOVEメンバー。オリーブツリー弦楽四重奏団チェロ奏者。

片岡 夢児 コントラバス *Yumeji KATAOKA, contrabass*

大阪府出身。東京藝術大学卒業、及び同大学院修士課程修了。大学院修了時にコントラバスとしては初の大学院アカンサス賞を受賞。大学院在籍時に新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。その後2018年より東京フィルハーモニー交響楽団首席奏者に就任。第3回秋吉台音楽コンクールコントラバス部門第2位、第4回秋吉台音楽コンクール弦楽器部門第2位、第19回コンセール・マロニエ21弦楽器部門第2位、第13回ルーマニア国際音楽コンクール弦楽器部門第3位、第1回K弦楽器コンクール第1位、その他受賞多数。コントラバスを永島義男氏に師事。国内外の著名な奏者のマスタークラスや公開講座を受講。

©Andrej Grilc

齋藤 志野 フルート *Shino SAITO, flute*

8歳より小楠元廣氏の下でフルートを始める。東京藝術大学音楽学部、並びに同大学大学院音楽研究科を卒業。第18回フリードリヒ・クーラウフルートコンクール(Trio AbO) 第1位、第16回チャイコフスキー国際コンクール 本選へ出場する等、国内外のコンクールにて多数の受賞歴がある。2017年-2019年度には瀬木芸術財団奨学生に選ばれ、2017年より渡欧。ウィーン市立音楽芸術大学にてカール=ハインツ・シュッツ氏の下で研鑽を積んだ後、グラーツ国立音楽大学の現代音楽科にてクラングフォルム・ウィーンのフルート奏者、エヴァ・フラー、ヴェラ・フィッシャーの両氏に師事、最優秀の成績で卒業した。ウィーンにおいて、Klangforum Wien、Ensemble Zeitfluss、Synchronos Ensemble等の現代曲アンサンブルのグループへ客演した。現在は現代音楽集団 アンサンブル・トーンシークのメンバーとして活動している。

荒川 文吉 オーボエ *Bunkichi ARAKAWA, oboe*

1992年、東京都出身。東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。修了時に大学院アカンサス音楽賞受賞。これまでにオーボエを池田昭子、広田智之、青山聖樹、小畑善昭の各氏に師事。第82回日本音楽コンクール 第2位ならびに岩谷賞(聴衆賞)受賞。第31回日本管打楽器コンクール第1位ならびに文部科学大臣賞、東京都 知事賞受賞。Fernand Gillet-Hugo Fox Oboe Competition 2015第2位(日本人過去最高位)。The Muri Competition 2019(スイス)第1位及び聴衆賞受賞(日本人初入賞)。2017年秋より、アフィニス文化財団海外研修員としてベ ルリンへ留学。同年9月より2年間、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の「カラヤンアカデミー」に在 籍。ジョナサン・ケリー氏に師事。2014年、大学4年在学中に東京フィルハーモニー交響楽団に入団。現 在、同楽団首席オーボエ奏者。

アレッサンドロ・ベヴェラリ クラリネット *Alessandro BEVERARI, clarinet*

1988年ヴェローナ生まれ。9歳よりクラリネットを始める。2009年国立ヴェローナ音楽院を最高得点で卒業 後、ピアチェンツァ音楽院、ジュネーブの高等音楽学院、ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院にて研鑽を 積む。2017年より、東京フィルハーモニー交響楽団首席クラリネット奏者に就任。第4回ジャック・ランス ロ国際コンクール(横須賀)で優勝、聴衆賞、浜中賞を受賞した。2019年にはチャイコフスキー国際コン クール管楽器 (木管楽器・金管楽器) 部門3位、その他数々のコンクールに優勝している。パオロ・ベルトラ ミニ、ロマン・ギュイオ、アレッサンドロ・カルボナーレの各氏に師事。

谷 あかね ホルン *Akane TANI, horn*

石川県出身。小松市立高等学校芸術コースを経て、東京藝術大学音楽学部卒業。第32回日本管打楽器コンクール第2位、第89回日本音楽コンクール第3位、第2回日本ホルンコンクール第3位など受賞多数。ホルンを松田浚良、守山光三、伴野涼介、西條貴人、日髙剛の各氏に師事。神奈川フィルハーモニー管弦楽団契約団員を経て現在、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団ホルン奏者。ミュージックスクール「ダ・カーポ」講師。

廣幡 敦子 ファゴット *Atsuko HIROHATA, fagott*

岡山県出身。東京藝術大学音楽学部を経て東京藝術大学修士課程修了。修了時に大学院アカンサス音楽賞受賞。2009年～ 2011年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト及びサイトウキネンフェスティバル 青少年のためのオペラに参加。第37回藝大室内楽定期に出演。アフィニス夏の音楽祭2014 山形、2015広島、2017広島に参加の際、日本ダブルリード主催Superior Step Forward Concert(ソロリサイタル)に出演。新進演奏家育成プロジェクトにて広島交響楽団とウェーバーのファゴット協奏曲を共演。これまでにファゴットを東口泰之、岡崎耕治の各氏に師事。広島交響楽団を経て現在、東京フィルハーモニー交響楽団首席ファゴット奏者。明誠学院高校特別講師。エリザベト音楽大学非常勤講師。